

様式第4のト (第4条、第5条関係)

移動タンク貯蔵所構造設備明細書

車名及び型式		①						
製造事業所名		②						
③ 危険物	類別			側面 当 板	材 料	材質記号		
	品名					引張り強さ	N/mm ²	
	化学名			⑨ 防 護 枠	材 料	板厚	mm	
	比重					材質記号		
④ タンク	断面形状			⑩ 閉 装 鎖 置	材 料	引張り強さ	N/mm ²	
	内 測 寸 法	長さ	mm			自動閉鎖装置	有・無	
		幅	mm	手動閉鎖装置	有・無			
		高さ	mm					
最大容量	ℓ		吐出口の位置		⑪ 左右後			
タンク室の容量	ℓ		レバーの位置		⑫ 左右後			
⑤ 結 元	材 料	材質記号			底弁損傷防止方法			⑬
		引張り強さ	N/mm ²		接地導線	⑭ 有(長さ m)・無		
	板 厚	胴板	mm	⑮ 緊 締 金 具 (す み 金 具)	有・無			
鏡板		mm						
間仕切板		mm						
⑥ 防 波 板	材 料	材質記号			U ボ ル ト	材質記号		
		引張り強さ	N/mm ²			引張り強さ	N/mm ²	
	板厚	mm	⑯ 箱 枠	材 料	材質記号			
面積比 $\frac{\text{防波板面積}}{\text{タンク断面積}} \times 100$	%	引張り強さ			N/mm ²			
⑦ 安 装 置	タンクの最大常用圧力		kPa		⑰ 消 火 器	薬剤の種類		
	作動圧力	kPa		薬剤量		kg	kg	
⑧ 側 面 枠	材 料	材質記号			⑱ 給 油 設 備	有(航空機・船舶)・無		
		引張り強さ	N/mm ²			⑳ 備 考		
	板厚	mm						
	取付角度							
	接地角度							

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。

移動タンク貯蔵所構造設備明細書 【様式第4のト】

- ① 「車名及び型式」欄は、タンクを固定又は積載する車両のシャーシメーカーの名称及び車検証に記載された型式を記入する。
- また、単一車もしくは被けん引車及び積載式もしくは積載式以外の別を記載すること。
- (例) ○○自動車 XYZ-1234A 単一車(積載式以外) 等
- ② 「製造事業所名」欄は、車両にタンク等の艀装を行い、移動タンク貯蔵所を製造した事業所名を記入する。
- ③ 「危険物」欄は、当該移動タンク貯蔵所に貯蔵が予定されるすべての危険物について、次により記入する。
- a 「類別」及び「品名」は、それぞれ貯蔵するすべての危険物の類別及び品名を記入する。ただし、類別・品名が多数となり、当該欄に記載しきれない場合は、別紙のとおりと記入し別紙一覧表を添付する。
- b 「化学名」は、貯蔵する危険物の化学名を記入する。ただし、ガソリン等の石油製品など通常化学名が用いられない物品にあっては、通常用いられている名称を記入する。
- (例) ガソリン、軽油、灯油を移送する場合
- 【類別】第4類 【品名】第1石油類、第2石油類 【化学名】ガソリン、軽油、灯油
【比重】0.75、0.85、0.80
- ④ 「タンク諸元」欄は、次により記入する。
- a 「断面形状」は、移動貯蔵タンクの移動方向に直角の断面の形状について、だ円形、円形、角形、特殊形状等と記入する。
- b 「内側寸法」は、円形のタンクの場合、その直径を幅及び高さとして記入する。
- また、だ円形及び特殊形状のタンクの場合は、その長径を幅、短径を高さとし記入する。
- c 「最大容量」は、タンクの内面積から空間容積を差し引いた容積を記入する。(単位はL)
- d 「タンク室の容量」は、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付して各タンク室の容量を記入する。ただし、間仕切のないタンクである場合は、最大容量と同じ値を記入する。
- (例) 第1、2、3室 2,000L 第4室 3,000L 等
- e 「材料」の「材質記号」は、タンクの材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
- また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- (例) 【材質記号】SS400 【引張り強さ】400 N/mm² 等
- f 「板厚」は、それぞれの規格値又は呼び板厚を記入する。
- ⑤ 「防波板」欄は、次により記入する。
- a 「材料」の「材質記号」は、防波板の材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
- また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- (例) 【材質記号】SUS304 【引張り強さ】520 N/mm² 等
- b 「板厚」は、それぞれの規格値又は呼び板厚を記入する。
- c 「面積比」は、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付して、タンク室の移動方向の最大断面積に対する防波板の面積の占める割合を記入する。
- なお、面積比の数値は、小数点第2位を四捨五入した値とする。
- (例) 第1、2、3室 55.3% 第4室 52.6% 等
- ⑥ 「タンクの最大常用圧力」欄は、タンクの最大常用圧力が、20kPa (0.2kgf/cm²) 以下のタンクである場合は、20kPa 以下と記入する。
- また、20kPa を超えるタンクである場合は、最大常用圧力の数値を記入する。
- ⑦ 「安全装置」欄は、それぞれ該当する箇所について、車両の移動方向の前方からタンク室に順番号を付して次により記入する。ただし、設置する安全装置の性能が同じである場合はまとめて記入する。
- a 「作動圧力」は、安全装置の作動圧力を $○○ < P \leq ○○$ kPa の範囲として記入する。

移動タンク貯蔵所構造設備明細書 【様式第4のト】

- b 「有効吹き出し面積」は、有効吹き出し面積を記載すること。
(例)【作動圧力】 $20 < P \leq 24$ kPa 【有効吹き出し面積】全室 25.5 cm²
- ⑧ 「側面柵」欄は、次により記入する。
- a 「材料」の「材質記号」は、側面柵の材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- b 「板厚」は、それぞれの規格値又は呼び板厚を記入する。
- c 「取付角度」は、貯蔵最大数量の危険物を貯蔵した状態における当該移動タンク貯蔵所の重心点と当該側面柵の最外側とを結ぶ直線と当該重心点から最外測線に下ろした垂線とのなす角度を記入する。
- d 「接地角度」は、最外側線と地盤面とのなす角度を記載する。
- e 「当て板」の「材質記号」は、タンクの材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- f 「当て板」の「板厚」は、それぞれの規格値又は呼び板厚を記入する。
- ⑨ 「防護柵」欄は、次により記入する。
- a 「材料」の「材質記号」は、防護柵の材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- b 「板厚」は、それぞれの規格値又は呼び板厚を記入する。
- ⑩ 「閉鎖装置」欄は、底弁の手動閉鎖装置及び自動閉鎖装置の有無について記入する。
- ⑪ 「吐出口の位置」欄は、該当する取付位置を○で囲む。
- ⑫ 「レバーの位置」欄は、緊急レバーについて該当する取付位置を○で囲む。
- ⑬ 「底弁損傷防止方法」欄は、配管による方法又は緩衝継手による方法等底弁の損傷を防止する方法を、その方法に応じて次の例により記入する。
なお、緩衝継手については、ピクトリックジョイント等の継手名称とすることもできる。
(例) 配管の屈曲／フレキシブルチューブ／可撓結合金具／配管及び緩衝継手 等
- ⑭ 「接地導線」欄は、接地導線の有無について記入し、有の場合はその長さを記入する。
- ⑮ 「緊結装置」欄は、積載式移動タンク貯蔵所である場合に、次により記入する。
なお、積載式移動タンク貯蔵所以外である場合は斜線で抹消する。
- a 「緊締金具（すみ金具）」は、緊締金具（すみ金具）の有無について記入する。
- b 「Uボルト」の「材質記号」は、Uボルトの材質を JIS 規格番号又は材質記号を記入する。
また、「引張り強さ」は、当該材質の公称の値を記入する。
- c 「Uボルト」の「直径、本数」は、直径はネジ山の谷径を、本数はUボルトの個数を記入する。
- ⑯ 「箱柵」欄は、タンクコンテナ等の箱柵を有するタンクの場合に、該当する項目を記入する。
なお、箱柵を有しないタンクである場合は斜線で抹消する。
- ⑰ 「消火器」欄は、当該移動タンク貯蔵所に設置した消火器について、次により記入する。
- a 「薬剤の種類」は、粉末、二酸化炭素等の消火薬剤の種類を記入する。
- b 「薬剤量」は、一の消火器の薬剤の量を薬剤の種類ごとに記入する。この場合、同種類の薬剤で一の消火器の薬剤量が異なるときは、それぞれ別の欄にその量を記入する。
- c 「個数」は、「薬剤の種類」及び「薬剤量」の記載内容に応じた消火器の個数を記入する。
- ⑱ 「可燃性蒸気回収設備」欄は、可燃性蒸気回収設備の有無を○で囲む。
- ⑲ 「給油設備」欄は、給油設備の有無を○で囲み、有の場合はかつこ内の該当しない項目を二重線で抹消する。
- ⑳ 「備考」欄は、保温若しくは保冷装置を設ける等又は不燃性ガス封入等の設備を有する特殊な構造の移動タンク貯蔵所である場合は、その旨及び最大積載重量を記入する。